## 「B. LEAGUE サステナビリティパートナー」への就任決定について ~B. LEAGUE Hope×日本生命 地域を元気に!バスケ ACTION 始動~

日本生命保険相互会社(社長:清水博、以下「当社」)は、公益社団法人ジャパン・プロ フェッショナル・バスケットボールリーグ(チェアマン:島田慎二、以下「B. LEAGUE」)の 「B. LEAGUE サステナビリティパートナー」に就任することをお知らせします。これは、 B. LEAGUE パートナーとして初となります。

当社グループは現在、サステナビリティ経営の一層の高度化を進め、『誰もが、ずっと、 安心して暮らせる社会』の実現を目指しています。これまでも、「Play, Support. ~さあ、 支えることを始めよう。~」をスローガンに掲げ、B. LEAGUE、B クラブ、公益財団法人日本 バスケットボール協会および一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟への協賛を 通じてバスケットボールを応援していくとともに、バスケットボール界と一緒になって、 心身の健康増進、未来世代の健全な成長、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン の浸透・共生 等、地域社会が抱える課題やテーマの解決に資するさまざまな取り組みを全 国各地で展開してまいりました。

本パートナーシップを契機にこれまでの取り組みをさらに強化していくべく、「B. LEAGUE Hope\*×日本生命 地域を元気に!バスケ ACTION」を新たに展開してまいります。これは、 全国の B クラブと当社・パートナー企業が連携した取り組みを各地で展開することを通じ て、地域社会の繋がり・地域活性化を実現していく、共同事業となります。

※B. LEAGUE Hope は、B. LEAGUE が設立当初から推進するソーシャルイノベーションの実現を目指した社会的責任活動です。

今後も、「バスケで日本を元気に」の実現を目指して活動する B. LEAGUE を応援し、B. LEAGUE および全国のBクラブとともに日本全国に元気を届けてまいります。



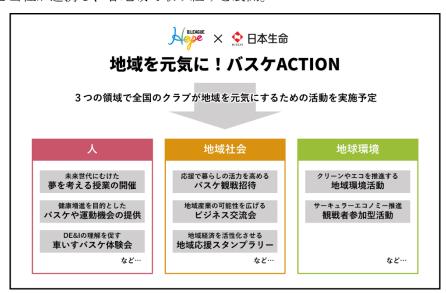




BUE 日本生命 Play, Suppert.

## ■「B. LEAGUE Hope×日本生命 地域を元気に!バスケ ACTION」概要

地方創生を掲げる B. LEAGUE と全国各地に事業所を有する当社が協力し、地域社会の活性化に向けた活動を各地域で展開していく共同事業。「人」「地域社会」「地球環境」の3 領域のサステナビリティ向上への貢献に資する取り組みメニューを策定。これに基づきBクラブと当社が連携し、各地域で取り組みを展開。



## ■B. LEAGUE チェアマン 島田慎二氏 コメント

この度、日本生命保険相互会社に、B. LEAGUE サステナビリティパートナーに就任いただき、「B. LEAGUE Hope×日本生命 地域を元気に!バスケ ACTION」を共同で実施することが決まりましたことに、心より感謝申しあげます。

日本生命は、全国 7 万人の役員・職員が一丸となりサステナビリティ活動を推進されており、グローバルスタンダードを掲げる B. LEAGUE として、重要テーマであるサステナビリティ活動を加速できることは非常に心強く、今後ご一緒できますことを大変有難く思っております。B. LEAGUE は、全国の B クラブ、そして日本生命とともに、全国各地での持続可能な社会の創造に挑戦することで、「バスケで日本を元気に」してまいります。

## ■日本生命 執行役員チーフサステナビリティオフィサー(CSuO) 鹿島紳一郎 コメント

この度、B. LEAGUE と「B. LEAGUE サステナビリティパートナー」契約を締結させていただくとともに、「B. LEAGUE Hope×日本生命 地域を元気に!バスケ ACTION」を共同で実施することが決まりましたこと、大変光栄に思います。

当社は、アスリートの活躍と、支える人々の想いを通して、「応援すること」や「支えること」の大切さを社会に広く伝えていきたいという想いから「Play, Support. ~さあ、支えることを始めよう。~」をスローガンに掲げ、バスケットボール・車いすバスケットボールをはじめ、さまざまな競技・アスリートの応援取り組みを全国各地で展開し、より良い地域社会づくりの貢献に向けて、日々活動しています。これまでも日本中にたくさんの希望や感動を届けてくれたバスケットボール競技を

これまでも日本中にたくさんの希望や感動を届けてくれたバスケットボール競技をより一層盛りあげていくとともに、当契約をきっかけに B. LEAGUE の皆様と相互連携を図り、取り組みを推進していくことで、バスケットボールを通じたより良い地域社会創りに貢献してまいります。

以上

2024-1783G. 広報部